

シモフリシマハゼ

【見られた地点：①・②】

河口域や潟湖などに生息し泥底から砂泥底の石やカキ殻の間や下でみられます。頭部の側面から下面にかけて小さい白色斑が密にし霜降り模様に見えることが名前の由来です。



キララハゼ属

【見られた地点：①・②・③・④】

水深の浅い砂泥底に生息しており、東京湾の沿岸域でも普通にみられます。砂泥底に巣穴を作るテッポウエビ類と共生していることがあり、天敵が近づくと尾鰭を震わせて巢内のテッポウエビに信号を送ります。



ハゼ科

【見られた地点：①・②・③・④】

ハゼ亜目魚類（ハゼ類）は、日本産海水魚の中で最も種類数が多く、淡水や汽水域にもいますが、多くは海水域にすんでいます。様々な生息環境に適応し、潮間帯から水深200m付近まですみ分けています。



ヒラメ

【見られた地点：④】

肉食性で、稚魚は主として小さな甲殻類などを食べますが、数cm位になるとカタクチイワシなどの幼魚に代わり、若魚や成魚になると、魚類、イカ類、甲殻類などを好むようになります。各地で盛んに養殖されています。



マコガレイ

【見られた地点：③】

おもに内湾の水深100m以浅の砂泥底に生息しています。ゴカイ類や甲殻類、二枚貝類などを食べます。産卵期は11月から3月で、やや岸よりの海底で産卵します。



アミメハギ

【見られた地点：①・②・③】

水深20m以浅の岩礁域や藻場に生息し、海藻に産み付けられた卵は雌が保護します。岩礁域や漁港、アマモ場で稚魚がよくみられます。体は菱形で、体長8cmほどになります。



カワハギ

【見られた地点：③・④】

体は菱形で25cmほどになります。砂泥底に生息しますが、岩礁域でもみられます。小型甲殻類、ゴカイ類、貝類などを食べます。肉は淡泊で美味、釣りの対象魚として人気があります。

